
編集後記

東日本大震災で15,829人が亡くなられました。心よりご冥福をお祈りいたします。いまだ3,686人の方々が消息がわかっておりません（11月1日現在）。このような多くの方々が犠牲になった災害では、私が中学2年の時、地元で経験した伊勢湾台風（死者・行方不明者5,098人）と記憶に新しい阪神淡路大震災（死者・行方不明者6,434人）ですが、それを遥かにしのぐ大惨事となってしまいました。特に巨大津波の来襲は、救助できた可能性が残っていたかもしれない人々をも呑込んでしまいました。さらに東京電力福島第一原子力発電所の臨界事故は、チェルノブイリをしのぐ程の被災を福島県民に背負わせることになってしまいました。人が想定していた大災害とはどれくらいだったのでしょうか。この想定外といわれる東日本大震災が我々に残してくれた教訓は何なのでしょうか。そしてこのような大災害時に何ができるのかを考えておかなければなりません。

本号は、東日本大震災を直接まのあたりにした貴重な体験を、臨場感あふれる表現・描写で執筆していただきました。これらの論文を精読していただき、1,000年に1回か2,000年に1回かわかりませんが、今後起こるかもしれない大災害に少しでも役立つよう準備や心がけをしていただければ幸いに存じます。会員の皆様方は日頃患者第一と考えて透析医療を行っていらっしゃると思いますが、医療は医療者側から一方的に与えるものではありません。患者さんも透析とは何か、透析を受けることの意義、自己責任の在り方等を基にして、今後起こりうる大災害に患者としてどう対応するかを医療者と一緒に考えていただければ幸いに存じます。今回の犠牲者の約46%が70歳以上の高齢者であったことを考えると、これから10数年後に迎える極端な高齢化社会は、透析を受けているか受けていないかに関係なく救済されなくてはならないことも考えておかなければならないのではないのでしょうか。

広報委員 奈倉 勇 爾

〈投稿のお願い〉

会員諸氏の皆様には、本年1年間ご支援いただきありがとうございました。皆様のご指導、ご協力により充実した医会誌を作ることができたと思っています。来年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

また、今後もより良い医会誌にしていくためにも、論文ご高覧のうえ、読後感を Letter to the Editor として募りますので、併せてご投稿をお願い申し上げます。

広報委員長 久保 和 雄